

組合士 アラカルト

東京都中小企業組合士協会会長
東京食肉業務用卸協同組合事務局長

まつぎ たつお
松崎辰夫さん

「一組合一組合士」を目指して

東京都中小企業組合士協会会長も務める松崎さんは御年84歳。現在も東京食肉業務用卸協同組合事務局長として、国や自治体の施策の動向や新しい情報への目配りを常に怠らない。それをレポートにまとめて組合員に発信し、時には厚さ数センチに及ぶ申請書類の作成を一手に引き受けるなど、「食の安全・安心をはじめ、何かと厳しい環境が続く業界の中で、少しでも組合員の事業継続や強化に役立てば」と、組合運営に余念がない。

気がつけば組合と共に60年

「中学時代からの友人に、ちよっと手伝ってと声をかけられて、気がつけば60年以上、食肉の世界に身を置いている」という松崎さん。組合運営にも昭和20年代後半の早い時期から関わり、現在も奉職する上記組合はその設立段階から参加している。中小企業組合士の登録も資格制度発足間もない昭和52年、組合士第3期生という組合運営の大先輩である。

平成17年からは東京都中小企業組合士協会会長の任にもあり、さまざまな特色ある事業を実施してきている。それらは「毎年同じことをやっているのは活動もマ

ンネリ化する」との問題意識のもと、会員間の情報交換や相互交流がより促されるようにと、例えば「女性部会」や「新事業部」を協会内に結成し、研修会や懇親会を通じて「互いを知る」機会の提供に努めている。

また、約700名の組合士を抱える、全国でも最大規模の協会として、「一度は組合事務局から引退したものの、まだまだ長年の組合運営で蓄積したノウハウを提供、活用してほしい」と、東京都中央会の「無料職業紹介事業」を通じて、リタイア組合士の就職斡旋活動という新機軸も打ち出してきた。

しかし、「現在の組合士協会の活動はどうしても役員が中心となりがち。ここにもっと役員以外の組合士の方々も参加していただけるようにしたいと思っっている」と組合士及びそのネットワークである組合士協会の更なる活発化を模索中でもある。

今、組合士に求められるのは

「現在の厳しい経済環境にあつて、中小企業組合の事務局責任者としての組合士が心がけなければならぬ最も重要な

こと」として松崎さんが指摘するのは「現在、組合員が組合に対して何を思い何を望んでいるか、組合員企業の経営者と同じ目線に立って考え実践行動すること」である。

それには、例えば協会の各種事業に積極的に参加したり、協会や連合会からの情報を活用するなどして「職務の遂行に必要な知識を蓄え、自らの資質の向上に努めることが大事」であるし、それを背景に「常に情報の収集と提供に務めて組合役員・組合員の信頼を得て、これまでに以上に組合役員・組合員に組合士の存在を認識してもらおうよう努力してほしい」と言う。

さらに、「企業や組合のコンプライアンスが求められている現在は、協同組合法等に精通している人材も必要不可欠であり、それに応えられるのが組合士であるという自覚も持つてほしい」と組合士の社会的な意義にももっと目を向ける必要性も指摘する。

組合士の更なる発展に期待

このように「組合の健全な発展に寄与できる者として組合士自身が努力を続け

ることはもちろん」としながら、「組合役員・組合員にもぜひお願いしたいことがある」と松崎さんは言う。例えば「組合士になった職員にはその努力を評価してほしいし、組合士が研修会などに参加するのは自己研鑽を重ねていくと理解してほしい。そうして組合士が得る知識は組合の健全な運営に反映されることを認識いただいで、組合の発展に欠かせない人材の育成支援策として組合士の普及にも取り組んでいただきたい」と求める。

組合員企業、そして組合を取り巻く環境は決して楽観できるものではないけれどとしながら、「このようなときこそ、組合組織の存在意義の認識を高めるとともに、時代に即した組合運営や各種事業の一層の活性化をはかるチャンスでもあると捉え、「一組合一組合士」を目指してひとりでも多くの組合事務局職員の方が組合士の仲間入りを果たされ、組合運営のエキスパートとしてその経験と能力を十分に発揮して、それぞれの立場で一層の発展にご尽力、ご活躍をされたいと願っています」と、組合士のみなさんへのエールを送ってくださった。

